

## けいじばん

○ちば里山センター年次総会；6月25日年次総会が開催され、過年度事業報告、新年度事業計画&予算、自主財源確保のため会員からの入会金・年会費徴収、役員数増を旨とする規約一部改正などが決定され、役員改選が行われました。センター創設以来会長として設立準備から運営に貢献してこられた当会の坂本代表は退任、新たに新井副代表が運営委員に選任されました。坂本様ご苦労様でした。新井様よろしくお祈りします。

○臨時活動日のお知らせ；きのこ班臨時活動日は7月8日（土）、詳細は村野班長にお問合せ下さい。植物班臨時活動については伊藤班長から植物班メンバーに連絡があります。

○次回活動日のご案内；7月17日（月曜日、休日）9時40分森林館駐車場集合、主な活動プログラム・食害防護柵撤去と食害対策のまとめ・植物調査（班）・キノコ調査（班）・シカ調査（班）・木工（班）等

## かつどうのきろく

6月18日（日曜日）曇後雨 参加会員20名

雨予報のため降雨前に豊英島で実習やグループ活動など昼過ぎまで目一杯活動し  
午後は清和県民の森管理事務所に移動して  
遅い昼食の後、「広葉樹林整備」の講義。

○安全ミーティング；苧米委員準備の冊子「野山における危険な昆虫など」を配布して、各種ハチ類、ヤマビル、マムシなどの危険を予防する注意と救急対応のお話。



相対照度測定実習を終えて 06/06/18

○相対照度測定実習；広葉樹林整備研修の一環として相対照度測定実習。実習は4班に分かれ、照度計とトランシーバを使用し1班は開放地とし

て吊り橋中央で測定、2～4班が島内に分かれて9カ所の相対照度の測定を行った。最も明るかったのは広場中心で平均32%、次いでコナラ更新試験林が31%、比較的明るいと思われる広葉樹林内が6～7%、ほかの場所は2～5%であった。コナラ更新試験林は18～46%であり、現状ではなんとか萌芽更新可能な明るさと思われる。天気はどんよりとした曇りであったが、相対照度測定には絶好の条件となり、全体的に安定した測定値が得られた。

○マダケ林防護柵補修；5月14日の活動で設置したマダケ林防護柵に食い破られたと思われる穴が二箇所あり、防護柵内のタケノコも4本を残し食害を受けていたので、全員で防護柵の補修・補強を行った。前回設置した網は網目が約10センチであったが、今回はさらに目の細かい網（約2センチ）を外側から重ねて補強した。この防護柵の外側にも少しタケノコが出ていたので一本ずつ割り竹で囲いを作り保護した。食害はシカの単独犯行ではなくサルやウサギなどの共犯の疑いも出てきたので、手間はかかるが一個一個竹で囲っていくこの方法も実施し、それぞれの手法の有効性を確認する必要があると思われる。また花木や林床植物への応用も試みる価値がありそうである。



網の内側も食べられ



全員で網補強



割り竹の囲い



皮を食べ残す犯人はサル？

全員参加で盛り上がった柵補強、シカ（+サル？）とヒトとの根競べ、軍配はどちらに？次回活動日のお楽しみ。

この後小雨のなか各グループに分かれ、短時間班活動など行った。

○コナラ更新林調査；萌芽更新に関しては、生存数に大きな変化はなかったが、枯死寸前の萌芽枝が多く、更新自体が危ぶまれる状態になってきた。伐採年齢、太さ、現状の光環境などさまざまな要因が考えられるが、今秋までは状況の変化を見守りたい。実生更新は相当数が生存しており、一向に個体間の優劣がつかない現状である。こちらから秋までは静観し、その後データに基づき両者の取り扱いについては議論を重ねたい。

○キノコ調査(班)；ミネシメジ、ツエタケ、ミヤマザラエミノヒトヨタケのほか硬質きのこ3種、計6種を確認し、標本を作製。(標本番号：36315、36316、36317、36318、36319、36320)

○シカ痕跡調査(班)；シカ班は、これまで比較的痕跡が多く見つかっているスタジイ林区域のササ原から入り江周辺の痕跡調査を行った。アオキは新芽が出ており新たな食痕は見られなかったがシカの足跡1カ所を確認した。シカの痕跡はマダケ林区域に集中しており、タケノコの食痕以外にもフン塊を10以上確認した。また、ウサギのフン塊もマダケ林防護柵内とその周辺で4以上、広場周辺で1確認した。



イチャクソウ 6/18

○植物調査(班)；開花中の植物を探したが、残念ながら咲いている花は少なく、イチヤクソウ、キョスミギボウシ、アブラギリ、など限られていた。このほかオオバノトシロソウ、ヒメヤブランらしい蕾を見かけた。またマダケ林でコクランらしい蕾を観察したが、開花時期を逃さず種を確認し写真を撮影したい。

○広葉樹林の整備研修；森林研究センター福島成樹主席研究員により当会のために準備された教本「広葉樹林の整備」に沿って、1時間半にわたり講義と活発な質疑が行われた。特に印象深い要点を抜粋すると・・・



講義に続く熱心な質疑 06/06/18

「森林整備作業は目的ではなく目標とする森林のイメージ(目標林型)に導くための手段」森林の調査→利用目的の決定→整備方法の決定→作業→森林の調査という手順のなかで、試行錯誤、フィードバックを繰り返し実行するものという指摘は、今後の「千年の森」にとって貴重な示唆を含むと思われる。広葉樹林は百林百様であり様々な利用目的が考えられるが、最も重要なのは利用目的を決めるための合意形成であること。そして目標とする森林のイメージを思い描くこと。広葉樹林管理における「光環境の管理」の重要性、相対照度と植物生育の関係など、朝の実習測定データを交えながらのお話は興味深く熱心な質問が集中した。景観林や生物多様性保全林の考え方と目標林型、整備なども興味深く、「千年の森」の整備に役立つ実務的で有益な研修でした。

森の作業・活動も実習・講義も内容の濃い、充実の一日でした。「千年の森」のために特に講義を準備下さった福島講師に感謝します。又会場を提供下さった清和県民の森のご好意に感謝します。有難うございました。

トビの営巣観察記

野鳥班 高橋忠友 記6/23

6月18日(日)、先に生まれたヒナが巣立ちました！

6月18日定例活動日、10時丁度島に到着。2羽のヒナが巣の中にくっついてるのを、皆で確認し一安心。その姿を数人で写真撮影中、突然1羽が立ち上がり、クルット後向きになったと思った瞬間、そのまま静かに巣立ちました、10時15分。まるで私たちの到着を待っていてくれたかのような巣立ちでした。卵確認から79日目、ヒナ確認から51日目でした。

6月21日(水)、改めてヒナを追跡調査の結果

・巣立ったヒナは対岸の枯れ木の枝に止まり、親鳥からエサ(大きな魚の身)を貰い元気に成長しています。時々近くの枝に飛び移ったりしています。

・後生まれのヒナは、まだ巣の中に残っています。こちらも間もなく巣立つでしょう。

千年の森の皆様の暖かいご声援にトビに代わって感謝します。有難うございました。